

**第48回（令和元年度）全国豆類経営改善共励会  
全国農業協同組合連合会会長賞受賞者  
概 要**

**大豆 家族経営の部**

**阿部 秀幸（山形県新庄市）**

大豆作付面積		1.4ha			
品 種	里のほほえみ	単 収	216kg/10a	上位等級比率	0.0%
				労働時間	13.7hr/10a

**【経営上の特色】**

- 大豆の全面積で化成肥料及び化学合成農薬を使用しない栽培を実施。
- 大豆は契約栽培で検査等級に関わらず契約価格が一定であるため、安定した収入源となっており、経営の柱となる品目として位置付け。
- 手作業による除草作業への労力集中のため、中耕・培土作業は地域内の作業受託組織に委託し、大豆の栽培面積の拡大を実現。
- 水田転作ほ場の作業受委託を調整する「塩野大豆そば生産組合」の代表として、良質な大豆・そばの生産をリード。また、高齢化に伴う周辺農家からの農地の貸借依頼に対しては、営農に支障のない範囲で可能な限り引き受け、地域の農地維持に貢献。

**【栽培技術上の特色】**

- 作業の効率化、生育・収量・品質の均一化のため、大豆ほ場は極力団地化。地力低下及び連作障害回避のため、大豆の作付年数は2年を上限として水稲と大豆の田畑輪換を実施。大豆作初年目は排水対策の徹底に努め、全ほ場で明渠と補助暗渠(プラソイラによる心土破碎)を施工。さらに明渠と排水溝との接続を手作業で行い、明渠からの排水を確実に実施。
- 除草剤を全く使用しないことから、雑草害発生防止のため、手取り除草を徹底し、開花期までに十分な生育量を確保。  
2年ごとの田畑輪換により畑地雑草の発生量を抑え、除草労力を削減。
- 基肥には、有機質肥料と価格が比較的安い鶏糞ペレットを使用し、コスト低減に努めている。

**【販売・消費拡大への取組】**

- 安全・安心な農産物に対する契約相手のこだわりを深く理解し、化成肥料や化学合成農薬を使用することなく、地力や大豆の活力を最大限に引き出す栽培に努めている。
- 毎年、契約相手との相互訪問を通して、消費者や加工業者等と情報交換を行い、大豆に対する消費者・実需者ニーズの把握に努めている。

## 阿部 秀幸（山形県新庄市）



阿部秀幸氏と奥様



培土作業の様子